令 和 8 年 7 月 2 日
教育委員会学校教育課

令和7年度の英語教育実施状況調査における北九州市の結果について

1 調査の概要

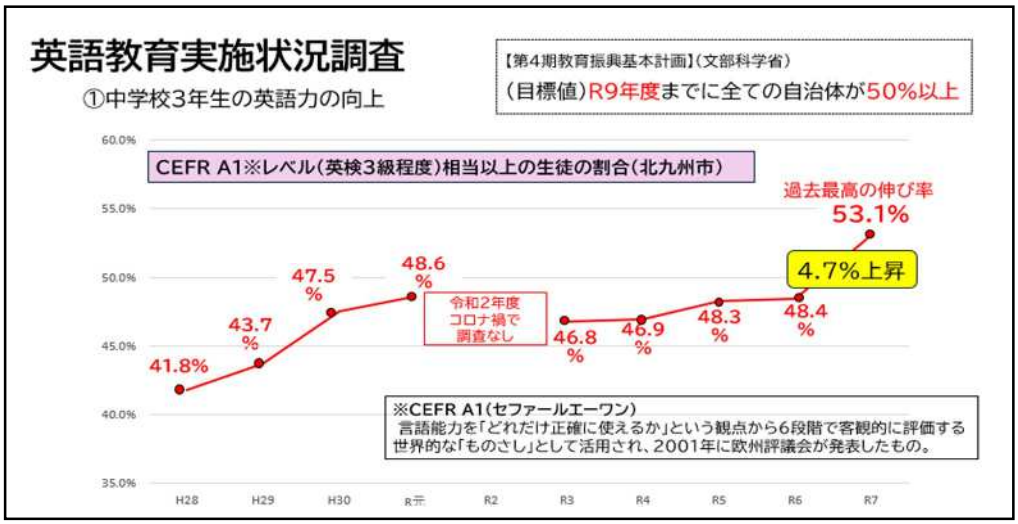
英語教育実施状況調査は、文部科学省が毎年実施している教職員を対象とした質問紙形式の調査であり、中学生及び英語担当教師の英語力、ALT の授業への参画状況など、英語教育の実施状況を把握することにより、国における教育施策の検討及び各教育委員会における指導改善に資することを目的とするものである。

2 北九州市の結果について

「第4期教育振興基本計画」(令和5年6月16日閣議決定)においては、令和9年度までに、全ての自治体において、中学校3年生のうち CEFR A1レベル(英検3級程度)相当以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上とすることが目標として掲げられている。

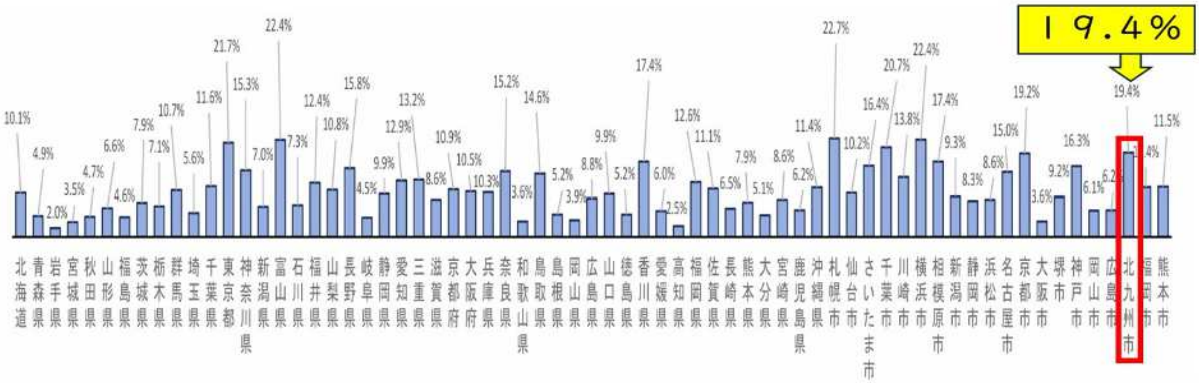
この度の調査において、北九州市の同割合は 53.1%となり、平成28年度の調査開始以来初めて 50%を超える結果となった。これにより、国が掲げる目標値を達成するとともに、前年度からの伸び率についても過去最高となっている。

(1)中学校3年生の英語力の向上



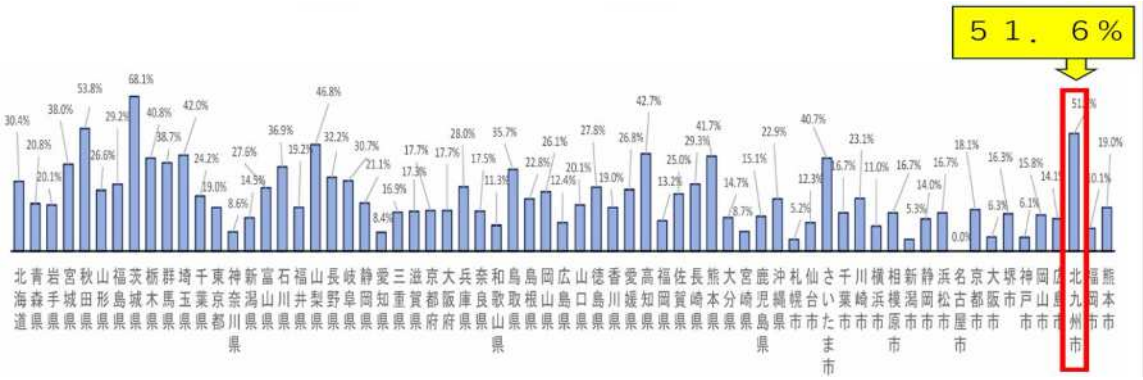
(2)教師の英語力の高さ

CEFR C1 レベル(英検1級程度)相当以上を取得している教師の割合が 19.4%であり、全67自治体(47都道府県及び20政令市)中6番目の高さ



（3）ALT の授業参画の割合の高さ

中学校の英語の総授業時数の半分以上の時間、ALT が参画する割合は 51.6％であり、全67自治体中3番目の高さ（令和5年度調査）



3　北九州市における外国語教育の取組

教育委員会では、平成28年度から、「外国語教育リーディングスクール」を指定し、授業公開や教員研修の充実を図るなど、10年間にわたり、継続して授業改善に取り組んできたところである。

令和6年度から、児童生徒が「自分の考えや気持ちを即興的に伝える力」の育成を目指した「北九州市型外国語教育」※の推進に取り組み、ハンドブックを作成するなど、全ての市立小中学校において、取組の共有と展開を進めている。

今回の結果はこうした取組の成果と捉えており、引き続き、その充実を図る。

※【北九州市型外国語教育の特徴】
（1）アウトプット（話す・書く活動）を重視した本市独自のカリキュラム
（2）小学校低学年からの英語体験活動と9年間の系統性のある外国語教育
（3）学習したことを試す場の設定（ALT との1対1のやり取り等）

4　令和8年度の取組

引き続き、これまで実施してきた英語教育の取組の充実を図るとともに、令和8年度においては、『英語を「使う」喜びを！』をテーマに、児童生徒が学んだ英語をアウトプットする場を提供するため、2つのイベントを実施する。

（第1弾）夏休みオンラインイングリッシュタイム（7月）
・自宅から ALT と英語で交流を実施。（R8　300名参加予定）

（第2弾）イングリッシュフェスティバル北九州（10月）
・学んだ英語をリアルな場で試す、北九州市最大級の英語体験イベントを実施。